

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立下京中学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善 (アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の充実)	校内研究のテーマに掲げ、教科会やチーム会議を中心に授業改善を図る	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている
	家庭学習の習慣化	家庭学習課題を毎日出し、本校独自の手帳を活用した計画的な家庭学習の指導	自分で計画を立てて勉強している。
	総合的な学習の時間の充実	探究・伝統文化体験・キャリア・人権の4つの分野での系統的な学習の実践	・探究学習は充実している ・伝統文化体験は充実している(教職員アンケート)
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成① (自他を尊重できる人権教育の充実)	学級・学年活動の中で他を思いやり協力する態度を身につけるとともに、人権学習を充実させる	子どもは仲間を大切にしたい行動ができている
	「公共の精神」に基づく態度の育成② (規範意識の醸成)	日常生活へのきめ細か目配りを行い、タイムリーな指導を行う	子どもはルールや決まり事を守ることができている
健やかな体	自他を大切にできる態度の育成	基本的な生活習慣の確立に向け、保健便りを活用した健康増進への啓発活動を行う	・朝食は毎日食べている ・毎日よく眠れている
	健康教育の充実	目・歯・防煙・薬物乱用防止の健康学活を計画的に行う	視力検査・歯科検診後の受診状況結果
独自の項目	キャリア教育の推進	基礎的・汎用的能力を育成するための生活指導や行事運営を進める	自分から役割や仕事を見つけたら、分担しながら、周囲と力を合わせて行動する



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年8月19日
	評価者・組織	学校評価部
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「そう思う・どちらかといえばそう思う」が70%	・キャリア教育実践計画書をもとに、思考ツールを活用しアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が展開できている。	・教科の本質的な学びを深めることに重点をおき、他教科等とクロスした授業を展開する。
「よく当てはまる、大体当てはまる」が45%	・家庭学習の時間が短いという課題は改善しているが、依然、十分とはいえず、計画的に学習することができない生徒が多い。	家庭学習課題の提出方法等の改善を図り、家庭での学習の定着をより強く進める。
「よくできている・大体できている」が、探究は65%、伝統文化が80%	・総合的な学習の時間では、4つの分野の特色のある取組が展開できている。	・探究学習について生徒はその効果を実感しており、3年間の系統だてた充実した取組を行う。
「よくできている・大体できている」が95%	・いじめアンケート等も活用し、教職員間で綿密な情報交換を行い、いじめを見逃さず、生徒の心に寄り添った指導ができている。	・日常の学級での生活や学校行事を通して、仲間づくりから集団づくりへと意識した学級経営を進める
「よくできている・大体できている」が80%	・家庭と連携しルールを守る指導等ができている。	・生徒の生活背景を理解することに努め、共感的理解をするとともに毅然とした指導をバランスよく行う。
朝食はほとんど生徒が食べているが、20%の生徒は「よく眠れていない」と回答	・ケータイ、スマホの時間を削らず学習時間を確保しようとするために睡眠時間が短くなっている。	・養護教諭や保健教諭が中心となり、睡眠時間の重要性についての学習を進める。
視力低下・目の疾患・う歯・歯周疾患が疑われる生徒の受診率が60%	・歯について、歯磨きの習慣が十分定着しており、良い歯の表彰を多数の生徒が受けた。	・健康に対して様々な角度から啓発学習を進める。
「よくできている・大体できている」が90%	・日常の生活や部活動をキャリア教育の視点で見つめ直し、汎用的能力の育成に努めた。	・汎用的能力が育成できているのかの検証方法の改善を進める。



学校関係者評価	
評価日	平成28年6月11日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・落ち着いた雰囲気の中、良い授業が行われている。	・地域の協力のもと、学力向上に向けての研究等をより推進する。
家庭学習の課題を解決するには、家庭の協力が不可欠である。	家庭での学習が重要であることを、地域全体で再認識し、できる限りの支援を行いたい。
・伝統文化体験(着付け教室・ゆかた登校)において、地域女性会が協力しているが、今後も引き続き支援をしていきたい。	・茶道体験・和食調理体験等の後半の伝統文化体験において、綿密な連絡を取り合い、企画運営していく。
・いじめの問題や不登校の課題の解決のために、生徒の様子を細かく観察し、心に寄り添った指導を希望する。	・不登校生徒が多いことを重要課題と捉え、保護者や関係機関の協力のもと、登校に向けて支援を強化していく。
・自転車の運転マナーの徹底や、登下校時の挨拶が十分できていない。	・自転車による交通事故をなくすために、警察等とも連携をとりながら安全指導を徹底していく。地域からも挨拶を通じた関係づくりを進める。
LINE等の利用時間が長くなり、健康面を悪影響が出ている。	ケータイ・スマホの利用の仕方について、継続して指導を進める。
薬物の問題もあり、健康面の学習の重要性が増している。	朝学活等での健康観察をより積極的に行い、生徒の変調を見逃さない指導を進める。
・自分の役割に責任感をもち、最後までやり抜く力や忍耐力を身につけていく必要がある。	・将来展望をもてない生徒が多い中、社会で役立つ能力の育成を旨とし、キャリア教育をより推進していく。